

種名	<u>ド　　ブ　　ガ　　イ</u> <u>Anodonta woodiana</u> 
分類	イシガイ目イシガイ科ドブガイ属
俗称	ヌマガイ(北海道)、カタツケ(埼玉、群馬、栃木、イシガイ科の総称)
形態的な特徴	殻長 200mm、殻高 80mm で日本の淡水二枚貝の中ではカラスガイに次ぐ大きさである。殻は大きく、両殻は膨れるが薄質であり、噛み合わせの歯がない。前縁は丸いが後端はやや細まっている。
分布	北海道から九州、沖縄にかけての各地に分布する。
繁殖行動	産卵期は4～8月頃で雌雄異体。グロキディウム幼生はタナゴやヨシノボリ類の鰭に寄生し、3～9日で稚貝に変態して底生生活にはいる。1日に2～4m程移動する。殻が丸みを帯びているため、いったん砂上に出るとなかなか元の泥底地に戻れない。
生息場所	池や川、潟、水田などの泥底から砂泥底中に殻を埋没させてすんでおり、陽の当たる泥底に多い。
食性	エサはプランクトンや藻類で入水管から水と一緒に吸い込み、漉しとって食べる。
生息環境への配慮事項	現在では生息地が減少したためあまり見られなくなった淡水二枚貝の中では、最もよく見かける種である。しかし、水域自体の減少やコンクリート張りの水域が増えたことで本種の生息環境は急速に失われている。イシガイ科に共通しているが、これらの淡水二枚貝を保護するにはグロキディウム幼生が寄生する淡魚類がともに生息できる環境を用意する必要がある。また、河川、湖沼の底質状況も重要でコンクリート張りでは生息できず、底質、水質が汚濁されていても生息には適さない。そのため、水質浄化も望めるヨシなどの水生植物が生息する部分を含めて水域を保全することが考えられる。
その他	日本産のドブガイには殻で区別できない、遺伝的に異なった3つの集団が知られている。
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	